

ネットウヨとナチスの隔たり

―掲示板「2ちゃんねる」の言説分析から―

河崎吉紀

一 はじめに

本稿の目的は、電子掲示板サイト「2ちゃんねる」におけるナチスとネットウヨの関係を明らかにすることである。二〇〇〇年に出版された『ヒトラーの呪縛』（飛鳥新社）で第一〇章「電脳ナチズムのインパクト」を担当したとき「主張する「サヨク」と「ウヨク」と見出しをつけ、親ナチス、反ナチスのサイトを紹介した。しかし、インターネット黎明期、二〇世紀のナチカル・サイトに互いのリンクは存在せず、罵詈雑言が飛び交うやりとりは見られなかった。ところが、一九九九年五月に「2ちゃんねる」が開

設され、二一世紀に入り瞬く間に規模を拡大させていくと、やがて「ネットウヨ（ネット右翼）」という言葉が誕生し、激しい書き込みの応酬が交わされるようになる。もはや、政治的主張をサイト単位で扱う研究には限界がある。そこで、本稿では電子掲示板における言葉や書き込みを分析し、二一世紀初頭の電脳ナチズムを補足したい。

ネットウヨの研究は緒に就いたばかりであるが、なかでも、その位置づけを試みた野上元「フラットな板と「ウヨサヨ」ゲーム」は重要である。「2ちゃんねる」で議論が進展しないのは、批判より「ツッコミ」「ボケ」が求められるからであるという。その対

象は「単一の世界観を疑いなく維持しているようにみえる人々」であり、とりわけ右翼、左翼が選択されがちである。これまで自明であった保守対革新という図式が冷戦後に失われ、「ツツコミ」「ボケ」の余地を生み出す。左翼を「ブサヨ（不細工な左翼）」として叩くことにも慣れてしまい、逆に叩く側の「ネトウヨ」まで滑稽なものとして扱われ始めた。このような現象に対し、野上は「知識人やジャーナリズムがしつらえてきたような、社会の「全体」をなぞらなければならぬという生真面目な「関心」が希薄化している。「全体」を参照することの必要のない社会、自意識のありようが全てを決めるセカイが始まりつつある」と説明する^①。左右の区分けは便利なレトリックにすぎず、やがてネトウヨもブサヨのように飽きられるだろう。

このように、議論の内容ではなく形式に注目する点は、『世界』に掲載の北田暁大「嘘う日本のナショナリズム」に同様である。「2ちゃんねる」に書き込

むこと、その行為こそが重要であり、マスコミの建前を「マスゴミ」として揶揄する、その内容は重要ではない。北田は次のようにまとめている。「社会学的にいえば、2chとは、公共的秩序を指向する目的合理性に対し、行為の円滑な連接を指向する接続合理性（場の空気を乱すことなくコミュニケーションを続けていく技量）が極限まで肥大化した社会空間といえるかもしれない^②」。ネトウヨがなんでもない内容を陰謀論に仕立てあげるのは、コミュニケーションを続ける話題を得たいからである。そこで語られる内容にアイロニーが含まれても、批判的な議論へはたどり着けない。コミュニケーションを至上とする限り、「建前に隠された本音」を暴くこともロマン主義となる。北田はさらに、NHKブックス『嘘う日本の「ナショナリズム」』において、このようなアイロニズムに至る過程を一九七二年の連合赤軍にさかのぼって考察している^③。

また、辻大介が二〇〇七年に行った調査は実証研

究として傑出している。⁴⁾ 操作的に定義された「ネット右翼」に該当したのは、有効サンプル数の一・三％であり、調査対象がインターネットのヘビーユーザーに偏りをもつことから、さらに比率は下がると見積もっている。条件を少し緩和した「ネット右翼的な層」については、男性が多く、低学歴ともいえず、世帯年収に極端な偏りはみられなかった。ただし、「2ちゃんねる」への書き込みは「ネット右翼的な層」が、そうではない人々に比べ頻繁であり、また、署名運動や投書、献金・カンパなど現実世界での活動もほかに比べ活発であることがわかっている。

そして、現実世界に出てきたネットウヨとして、在日特権を許さない市民の会（在特会）への秀逸なルポルタージュ『ネットと愛国』を著したのが安田浩一である。安田は、二〇〇二年のワールドカップ以降、韓国を罵倒する内容が「2ちゃんねる」に増えたと指摘する。「差別はいけない」ではなく、「差別は本当にいけないことなのか」と挑発する行為こそ、

ネットでは求められている」というように、⁵⁾ 既存の権威に挑戦する行為をそれ自体を重視する。ほかに、韓国におけるネットウヨを取り上げた金玄郁「イルベ——韓国のネット右翼の行方」でも、「イルベでなぜこんな保守的言説が流行しているのだろうか？ 面白いからである。韓国の左派の過剰なまでの道徳主義言説は、権威的言説として受け取られ、その反動としてのネット右翼が登場するようになったのだ」と説明される。⁶⁾ ただし、金は単純に唾いの「ネタ」として受け止めるだけでは、在特会のような現象を説明できないとし、安田もヘイトスピーチについて、コミュニケーションの充足という自己満足では済まされない被害を与えていると警告している。

そして、ナチスとの関連では、二〇一四年四月二〇日に池袋でデモが行われ、日の丸、旭日旗に並び、ハーケンクロイツが掲げられた。⁷⁾ デモの団体は「護国志士の会」という。大東亜共栄圏の復興を主張する団体である。もちろん、四月二〇日とはヒトラー

二 ニュースの必要性

の誕生日である。国内のマスメディアはこのデモを取り上げず、『朝鮮日報』が報じた。『朝鮮日報』の記事を香港の新聞『大公報』の電子版『大公網』が取り上げネット上に伝えられ、話題となり、「2ちゃんねる」の素材とされた。

しかし、これまでナチスとネットウヨの関係について注意を向けた論考は少なく、十分な検討が行われてきたとはいえない。また、電子掲示板サイトの研究は、言説の傾向を総体として位置づけるものが多く、個々の書き込みが取り上げられることはほとんどない。以下、本稿では日本における電脳ナチズムの一端を解明するため、「2ちゃんねる」の書き込みを数量的に把握したうえで、代表的なスレッドを事例として紹介する。ネットウヨとナチスがそこでどのように論じられているのか明らかにしよう。

調査対象は電子掲示板サイト「2ちゃんねる」における二〇一四年末まで書き込みである。過去のスレッドを閲覧できる代表的なミラーサイトとして「ログ速」(<http://www.logsooku.com>)を用いた。「ナチス」「ネットウヨ」をタイトルに含むスレッドを検索し、該当する六二本を対象とした。初出は、二〇一〇年三月二十九日にニュー速VIP板に立てられた「ナチス式敬礼のA A作つてユダヤ人とネットウヨ怒らせようぜwwwwww」というスレッドである。

まず、掲示板別の書き込み数をみておこう(表1)。タイトルに「ナチス」と「ネットウヨ」を含むスレッドはニュース速報板に多い。一九九九年に開設された同板は、ニュースを扱う板として「2ちゃんねる」における代表的な板である。ただ、書き込みの一番目にニュースが掲示されるというルールを除き、内容は雑談系と変わるところがない。次に、このニュ

ース速報板から派生したニュー速(嫌儲)が多い。

表1 掲示板別書き込み数

	スレッド	書き込み	平均
ニュース速報	18	7,402	411
ニュー速(嫌儲)	11	2,800	255
モ娘(狼)	9	850	94
番組ch(NTV)	1	42	42
ニュー速VIP	17	465	27
番組ch(フジ)	1	10	10
なんでも実況J	4	24	6
ニュー速VIP+	1	6	6
計	62	11,599	187

この板は営利目的のブログへ転載されることを禁止している。「雑談系2」に分類されるが、ニュースを出発点とするところは、ニュース速報板と変わらない。いずれにせよ、この二つの板で、「ナチス」「ネトウヨ」をタイトルを含むスレッドの書き込みは八七・九%を占める。ニュー速VIP板はスレッド数では二番手だが、書き込みそのものは少ない。2ちゃんねるを代表する板ではあるが、ニュースよりむしろ雑談系に分類される。

このように、何らかのニュースを供給されて初めて「ナチス」「ネトウヨ」をタイトルを含むスレッドは誕生する。逆にいえば、一般論としてナチスとネトウヨの結びつき論じるスレッドが忽然と生じたり、議題にされることは少ないのである。例えば、「ネトウヨってナチスと同じだね」「ネトウヨはナチスと一緒に」「ネトウヨって要するにナチスでしょ」「よくチヨンやサヨクはネトウヨはナチスって言うよね」「ネトウヨってナチスと一緒にだよ」など、ネトウ

ヨとナチスを同一視するスレッドは定期的に立てられるが、書き込み数はそれぞれ、四六件、一一件、五三件、二件、一五件と盛んではない。

三 「ナチス」という言葉の頻度

次に、「ナチス」「ネットウヨ」という言葉が登場する頻度を調べた。そもそも、これらの言葉を含むタイトルをもつスレッドのみを抽出している。仮にナチスとネットウヨに関連があるとすれば、言葉が登場する頻度には正の相関があつてしかるべきである。

そこで、各スレッドに含まれる「ナチス」「ネットウヨ」という言葉を数えた。たとえば、「ネットウヨ「ナチスによるユダヤ人の大虐殺はなかった」というスレッドなら、「ナチス」という言葉は四六回、「ネットウヨ」は六二回登場している。書き込み数は二二二件である。

表2 スレッドに含まれる言葉の頻度の相関
(書き込み数 50 以上)

	ネットウヨ	ナチス	韓国
ナチス	0.02		
韓国	0.54	-0.05	
中国	0.61	0.29	0.47

しかし、「ナチス」と「ネットウヨ」の言葉の頻度は、相関係数マイナス〇・一九であり、「ネットウヨ」という言葉が掲示板で多用されたからといって「ナチス」への言及が増えるわけではないことがわかった。もちろん、逆も同じである。

では、「ネットウヨ」と関連する言葉はなんだろうか。辻天介の調査では韓国、中国への親近感を「ネット右翼」の操作的定義の条件の一つに用いている。そのほか、先行研究で言及の多かった「韓国」との関連をみておこう。しかし、ここでも言葉の頻度を使った相関は〇・一二であり、関連をみいだせなかった。

これらは書き込みの数に影響を受けている。スレッドに含まれる書き込みがあまりに少なければ、当然、言葉の頻度も〇となる。そこで、書き込み数五〇以上のスレッドのみを対象に再度、分析を行った(表2)。該当するのは三三本である。それでも「ネットウヨ」と「ナチス」の相関は〇・〇二であり、関

連はなかった。ところが、「韓国」と「ネットウヨ」の相関は〇・五四、「中国」についても、〇・六一となっており、関連があることがわかった。

つまり、「ネットウヨ」と「ナチス」をタイトルに含むスレッドであっても、「ネットウヨ」という言葉が多用されるからといって、「ナチス」への言及が増えるわけではないが、「韓国」や「中国」といった言葉については、「ネットウヨ」への言及に併せて多用される傾向がみられる。

四 事例

最後に、これらのスレッドがどのような内容だったのか、事例をあげて紹介しておこう。対象となるのは、書き込み数二〇〇〇を超えた三本である。

まず、「ニューヨーク・タイムズ」日本人の貧乏人どもがネットウヨ化してる、これは新しいナチスだ(二〇一〇年八月三十一日に立てられ、同日、

表3 「ナチス」という言葉の位置

2010年8月31日 ニューヨーク・タイムズ「日本人の貧乏子どもがネットウヨ化してる、これは新しいナチスだ」

0	100	200	300	400	500	600	700	800	900	計
9	5	10	6	2	4	2	0	2	6	46
19.6	10.9	21.7	13.0	4.3	8.7	4.3	0.0	4.3	13.0	100.0

2012年12月19日 アジカン後藤が激怒！9条改正の自民党はナチスと同じ、自民に投票した差別主義のネットウヨはクズ

0	100	200	300	400	500	600	700	800	900	計
7	7	15	10	15	5	10	9	11	32	121
5.8	5.8	12.4	8.3	12.4	4.1	8.3	7.4	9.1	26.4	100.0

2013年8月1日 麻生のナチス発言の音声があうpされる 麻生「手口学んだらどうかね」 ネットウヨ「わははは」 AUTO

0	100	200	300	400	500	600	700	800	900	計
18	35	29	15	28	46	40	25	25	29	290
6.2	12.1	10.0	5.2	9.7	15.9	13.8	8.6	8.6	10.0	100.0

二本のスレッドが追加された。また、ほぼ一年後の二〇一二年八月四日、同じニュースでスレッドが立ち、「ソース古過ぎんだろ」「二〇一〇年のニュースは速報じゃねえだろ」と書かれつつ、書き込みは六三件まで伸び、翌八月五日にも同様のスレッドが立てられ、八五二件まで書き込みが続いた。

出発点となったニュースは、『ニューヨーク・タイムズ』東京支局長のマーティン・フアクラークが書いた『A New Wave of Dissent in Japan Is Openly and Loudly Anti-Foreign』という記事である。二〇〇九年二月に在特会が、京都朝鮮第一初級学校の周辺で行った演説を扱ったもので、スレッドでは『環球時報』が引用したものを利用している。記事のなかで、ネット右翼はネオナチとは異なると書かれているにもかかわらず、スレッドのタイトルはネットウヨは「新しいナチス」ということになっており、二二一番の書き込みで次のように指摘されている。

ひでーस्ताイだ

こういう歪曲つてマスゴミがよくやるよね

一部ではネット右翼を「新しいナチス」だと表現する人もいるが、

←

ニューヨーク・タイムズ「日本人の貧乏人どもがネットウヨ化してる、これは新しいナチスだ」

しかし、タイトルが内容を歪曲した点は大勢に影響を与えることなく、書き込みは旺盛に続き一〇〇〇を超える。そして、この盛り上がりはけっして、ネットウヨとナチスの関係を中心に推移したものではなかった。「ナチス」という言葉は、このスレッドに四六回登場するが、そもそも「ネットウヨ」三八三回に比べて少ないことに加え、「ナチス」の半数強は二〇〇番台までに登場する。三〇〇番台までに約三分の二が現れる(表3)。逆にいえば、「ナチス」という言葉は、このスレッドの後半にほとんど登場しな

い。

争点の中心はネットウヨをめぐる擁護と批判の応酬である。「ネットウヨ叩きに必死になつてる人はいい加減ネットウヨと同レベルつてことに気付けよ」「ネット右翼つてまじでなんなの?」「本当のところほとんどの学生じゃないの/無職ニートならネットウヨやつてる場合じゃないだろ」「ネットウヨは自分をネットウヨとは認めないからな/だから自分がネットウヨかもしれないと思つてネットウヨではないんだよ」といった書き込みがある。

一方で「韓国」という言葉は全体で八二回登場し、五〇〇番台で半数弱、三分の二を超えるのは七〇〇番台に入つてからとなる。つまり、後半のほうが多い。「ナチス」を冠するスレッドであるということが忘れられ、もっぱら「ネットウヨ」についての話題が盛り上がるにつれて、「韓国」という言葉が併せて用いられているのではないだろうか。

さて、次に書き込み数一〇〇〇を超えたスレッド

は二〇一二年一月十九日の「アジカン後藤が激怒!九条改正の自民党はナチスと同じ、自民に投票した差別主義のネットウヨはクス」である。ASIAN KUNG-FU GENERATIONというロックバンドのボーカル、後藤正文のブログ「日記」に掲載された「お詫び」が情報源となつている。ここでもスレッドのタイトルにあるような文言が、後藤のブログに載っているわけではなく誇張されたものになつている。書き込みの内容は後藤への批判と憲法改正の是非が主である。

「ナチス」という言葉は、このスレッドに二二一回登場するが、その分布は前半と後半でほとんど変化しない。九〇〇番台が三二回、全体の二六・四%で突出しているほかは、均一に使われている。多く目につくのが、相手を罵倒するために「ナチス」や「ヒトラー」を使うことへの批判である。「何でもナチスにする奴はナチスについて何も解つてない」「馬鹿ほどナチスやヒトラーに喩えたがる」「すぐナチス

とかヒトラーって馬鹿の一つ覚えか」「すぐにヒトラーやナチス持ってくるあたりバカっぽい」「ナチス言いたいだけやろ」などの書き込みがある。自民党の政策を叩くとき、「ナチス」というレトリックを用いることが、サヨクの常套手段であるという批判が散見される。「韓国」は一五回であり、「ネトウヨ」も二九回で、ネトウヨが議題の中心でないため、「韓国」への言及も少なくなつた可能性がある。

三つ目の事例は、二〇一三年八月一日の「麻生のナチス発言の音声が入る」麻生「手口学んだらどうかね」ネトウヨ「わははは」AUTOである。

二〇一三年七月二十九日に、国家基本問題研究所の月例研究会で、当時副総理であった麻生太郎がナチス政権の手口を学んだらどうかといった趣旨の発言をしたとして各紙が報道し、サイモン・ウイーゼンタール・センターなどが批判声明を発表する事件があった。その後、麻生は発言を撤回している。情報源にはYouTubeの音声あげられた。同日、「ネトウ

ヨ「麻生の発言はナチスを反面教師にしてという意味」しかし録音起こしが公開されネトウヨ撃沈」というスレッドも立っており、四八七件が書き込まれている。八月三日になって二本のスレッドが立てられたが、五件と一五二件であり、さほど白熱していない。

一〇〇〇件を超えた最初のスレッドは、「これは完全にアウトだわ／もうネトサボだけじゃ鎮火しきれないでしょ」「はつきり言つてやろう／単にボケ老人なだけだ」「さっさと議員辞職しろ」など、麻生批判が基調になっている。ナチスを例にあげた点がジョークと捉えられるかが争点となった。「うくん。この連中ってあの全文を見てもナチを賞賛してるって考えてるの？ あれはナチの例があるからあんならないように言つてただけだと俺は思うんだが違うのか？」など、発言の解釈について書き込みが続く。あるいは、同日に立てられた別のスレッド「ネトウヨ「麻生の発言はナチスを反面教師にしてとい

う意味」しかし録音起こしが公開されネトウヨ撃沈
（四八七件）では、「解任しかないな」「自爆じゃん」といった麻生批判と、「どこが問題なんだよっ」「いちいち揚げ足取るなや」といった麻生擁護の応酬があり、必ずしも批判が主ではないが、全体として「と解釈するのが自然な読解だよな」「という趣旨じゃん」など、発言の解釈をめぐる書き込みが盛んである。麻生が発言を撤回してからも書き込みが続くことに對し、「もう本人も発言撤回してるし解釈してもしょうがなくね」など不毛さを指摘する声があがっている。

つまり、麻生を擁護するネトウヨという構図のなかで、「ナチス」を用いた麻生の発言をどのように解釈できるかが争点となっている。ネトウヨがナチスを賛美するという議論ではない。一方、「ナチス」という言葉の頻度であるが、後半のほうがやや多いものの、全体に拡散している様子がうかがえる（表3）。ここでも「韓国」については二八回でほとんど登場

していない。

五 まとめ

このように、タイトルに「ナチス」「ネトウヨ」を含む「2ちゃんねる」上のスレッドは二〇一〇年代から登場し、ほとんどがニュースを出発点にする掲示板での書き込みである。雑談系の掲示板で、ナチスとネトウヨの関係をニュースを交えずに立てたスレッドは、書き込み数が伸び悩んでいる。とはいえ、取り上げた事例では、ニュースの内容は曲解され、誇張されたタイトルがつけられている。ニュースは議論の土台ではなく、コミュニケーションのきっかけにすぎないという点、先行研究の指摘に合致している。

また、「ナチス」という言葉が使われる頻度は、「ネトウヨ」という言葉が使われる頻度と関係がなかった。事例では、「プサヨ」が相手を罵倒する際に用い

る常套句として、「ナチス」や「ヒトラー」をレッテル貼りすることへの批判が散見される。そして、ネトウヨがナチスを礼賛するというような書き込みは、ほとんど存在しない。

ハーケンクロイツを掲げたデモから想像されるほど、電子掲示板サイトでネトウヨがナチスを称揚しているわけではなく、二〇一四年末までの「2ちゃんねる」を見る限り、二一世紀初頭においても、親ナチスと反ナチスで抗争を展開しているわけではないと言える。

- (1) 野上元「フラットな板と「ウヨサヨ」ゲーム」遠藤知巨編『プラットフォーム・カルチャ——現代日本の社会学』せりか書房、二〇一〇年、三六八頁
- (2) 北田暁大「喋う日本のナシヨナリズム——「2ちゃんねる」にみるアイロニズムとロマン主義」『世界』七二〇号、二〇〇三年、一二〇頁
- (3) 北田暁大『喋う日本の「ナシヨナリズム」』日本放送出版協会、二〇〇五年
- (4) 辻天介『インターネットにおける「右傾化」現象に関する実証研

究』二〇〇八年。

- (5) 安田浩一『ネットと愛国——在特会の「闇」を追いかけて』講談社、二〇一二年、三四八頁
- (6) 金玄郁「イルベ——韓国のネット右翼の行方」『インパクション』一九一号、二〇一三年、五七頁
- (7) 「日曜の池袋に白昼堂々「ハーケンクロイツ」——ヒトラー誕生日に「ナチス賛美」デモ」、『CAST ニュース』(二〇一五年一月二日取得、<http://www.j-cast.com/2014/04/23203031.html>)
- (8) 「日本右翼高舉納粹旗鬧市遊行——慶祝希特勒生日」、大公网(二〇一五年一月二日取得、<http://news.takungpao.com/world/exclusive/2014-04/2435169.html>)